
令和4年度 第1回午前

桐蔭学園 中等教育学校 学力検査問題

国 語

令和4年2月1日 施行

注意事項

1. 試験開始の合図^{あいず}があるまで、この冊子^{きつし}の中を見てはいけません。
2. 机の上には、えんぴつ・シャープペンシル・消しゴム・受験票・座席券・時計以外のものを置いてはいけません。受験生^{あがひ}どうしの貸し借り^{かひかり}もできません。また、机の中には何も入れてはいけません。
3. けいたい電話は、必ず電源を切って、かばんの中に入れておいてください。
4. 問題冊子^{もんたいさふし}の印刷^{いんさつ}が見えづらかったり、ページが不足したりしている場合、また、えんぴつなどを落としたり、体の調子が悪くなったりした時は、だまって手をあげてください。
5. 問題冊子のあいているところは自由に利用してかまいませんが、どのページも切りはなしてはいけません。
6. 記述問題において、小学校で習わない漢字はひらがなで書いてもかまいません。
7. 問題は18ページまであります。
8. 問題冊子は持ち帰ってください。

□

次の——線部のカタカナを漢字になおし、漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- ① 今日はイヨウに寒い。
- ② 映画館のカンバンが新しくなる。
- ③ 名画をフクセイする。
- ④ ショウガイ物を取りのぞく。
- ⑤ ミスを繰り返さないよう、ゼンシヨしたい。
- ⑥ 弟はジュンシンな心を持っている。
- ⑦ 犯行の動機をスイリする。
- ⑧ 万国ハクラン会を見に行く。
- ⑨ 同級生は縦横むじやう無尽むじんに活躍かつやくしている。
- ⑩ 人気者になるために物事を針小棒大に言う。

□ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

2019年12月4日、新聞各紙が①「日本の読解力15位」「続落」「後退」と報じました。79カ国・地域の15歳(日本は高校1年生)約60万人の生徒を対象に実施された2018年の「PISA(学習到達度調査)」で、日本の読解力の順位が、前回2015年の8位(516点)から15位(504点)に下がったというニュースです。

日本経済新聞は「読解力、過去最低の15位」とショッキングな大見出しを打ちました。読売新聞は翌5日も、このニュースを受けて「国語力が危ない」という連載記事を一面トップに掲載し、「この公園には滑り台をする」「文章作れぬ若者」と見出しをつけています。ダウンタウンの松本人志さんもツイッターで「日本の子供達の読解力が世界的にみて劣ってるらしい…」と話題にするなど、この「読解力15位」のニュースは波紋を広げました。

PISA調査とは、経済協力開発機構(OECD)が実施している国際的な学習到達度調査で、PISAはProgramme for International Student Assessment(国際生徒評価のためのプログラム)の略称です。

「21世紀に必要な主要な資質・能力」として、読解力、数学的(注1)リテラシー、科学的リテラシーの3つを調査しています。この2018年調査において、日本の数学的リテラシーは6位(527点)、科学的リテラシーは5位(529点)で、世界トップクラスの水準を維持していました。読解力だけが大幅に順位を下げたということで、大きく報じられたのです。

【A】

さてこの「読解力」、訓読みをすれば「読み解く力」ですが、これはそもそもどんな力を指すのでしょうか。

「小説を読んで登場人物の気持ちを想像する」「評論を読んで著者の主張を考える」といった、国語の授業で問われていたことを思い浮かべる方が多いかもしれません。

それも I 「読解力」で、学びの場で重視される力です。 II 私は読解力というものを、もっと広義にとらえ

たほうがいいのではないかと考えています。

【B】

読解力は、国語の授業中だけではなく、生きていく上で常に必要となる力です。日常生活においても、住宅や携帯電話の契約

書、税金や保険の手続き書類、友人とのメールやSNSでのやりとりなど、正しく理解すべき文章は身の回りにあふれています。

【C】

仕事でも、上司や同僚、取引先からのメール、企画書、仕様書、発注書、契約書など、さまざまな文章を読む機会があるでしょう。それらを読んで理解する力がないと、思わぬ誤解を招いたり、コミュニケーションがとれなかったり、仕事自体が立ち行かなくなったりしてしまいます。

【D】

「回りにくい言い方をしているけれど、この人の本音は違うな」「説明が下手だけれど、要するにこういうことを言いたいんだな」などと、相手の意図をこちらで察するということです。

たとえば「大丈夫」という言葉は、^②状況次第でさまざまな意味にとれるため、読解力がある言葉だとと言えるでしょう。転んだ子どもに「大丈夫？」と聞いて、相手が笑顔で元気よく「大丈夫！」と答えたら、「そんなに痛くなかったよ」だとか「問題ないよ」とかいった意味になるでしょう。しかし元気がなく口数が少なくなった同僚に「大丈夫？」と聞くという状況では、相手がいくら「大丈夫です！」と言ったとしても、それは心配させまいという気遣いだったり、強がりだったり、本当は大丈夫ではない、と読み解くほうが自然でしょう。

他にも「その発想はユニークだね」というセリフを、あなたはどうか受け止めるでしょうか。これも状況によって「独創的で本当に素晴らしい」という賞賛なのか、「面白いけれど、ウチの会社の実情を考えたら到底無理だね」という含みのある言い方なのか、「面白いけどウケ狙いでしょ？」と呆れているのか、あるいは「話にならないよ」と馬鹿にしているのか、さまざまな意味に読み解けるのではないでしょうか。

状況次第というのはつまり、そこに至るまでの文脈だったり、相手の表情や態度など言葉以外の情報「ノンバーバル(言葉を用いない)コミュニケーション」だったり関係するということです。

【E】

2020年春、新型コロナウイルスの流行で日本全国に「緊急事態宣言」が出て以降、テレワークは急速に普及しました

が、オンライン会議やメールでは、相手の状況がわかりづらいという不便さを感じた人も多いのではないのでしょうか。

会社という場でじかに接していれば、相手の表情や態度から、忙しそうだな、あるいは余裕がありそうだな、ということが容易にわかり、報告や相談などもタイミングを計りやすかったのですが、テレワークではノンバーバルコミュニケーションが不足し、相手の状況を読み解く手段が限られるため、ストレスが溜まるのです。

友人や恋人、家族や同僚といった身近な人たちとコミュニケーションをとる際には、言葉や表情、態度、場の流れなどから相手の伝えたいことをきちんと理解できないと、人間関係がこじれてしまいます。反対にそれをきちんと読み解くことができれば、人間関係はより良好になることでしょう。

③ 読解力はこのように、ビジネスにおいても当然欠かせないものです。

たとえば営業職の場合、取引先からの発注書に書かれているさまざまな条件を丁寧に読み込まなければ、相手の要望どおりに納品することはできません。それができなければ、社会人として問題です。

優秀なビジネスパーソンは、部品を納品して終わりではなく、「取引先はなぜこの部品を欲しがっているのだろうか」と発注書を読み解きます。この部品で相手が何を作ろうとしているのか状況を察知できれば、「わが社にはこんな部品もあります」「こういう提案もできます」とビジネスチャンスを広げていけるからです。読解力は、仕事に直結して役に立つのです。

星野リゾート代表の星野佳路さんは、軽井沢の実家である「星野温泉旅館」を再生し、ホテルや旅館を所有せず運営サービスの提供に特化するビジネスモデルで、日本各地のリゾートや旅館を再生させたことで有名です。現在は海外進出もしています。星野さんは運営するホテルそれぞれが置かれている状況を丁寧に読み解き、新しい需要を掘り起こしています。

星野リゾートが運営する「OMO7 旭川」は、1920（大正9）年に「北海屋ホテル旭川支店」として開業したという、長い歴史を持つホテルです。

初めはスキー旅行者の需要はゼロだったそうですが、欧米など世界のスキーリゾートは標高の高いところばかりで、都市から非常に近い距離でスキーを楽しめるのは日本の旭川しかない、ということに気づきました。そこで、2018年春にリニューアルオープンした際に「旭川、スキー都市宣言！」と掲げて、新しいセールスポイントをつくり出しました。

ホテルからバスで1時間以内に行けるスキー場は3つもあり、宿泊客はその日の天候や積雪量を見てどこに行くか決めら

れる上に、吹雪でスキーができない日には旭山動物園に行ったり、旭川のグルメを味わったりと、予定を変更して観光を楽しむこともできます。

この売り出し方により、2019年12月から2020年1月のスキー旅行者は、宿泊者全体の25%にまで上ったそうです。夏に比べて冬の観光客が少なかった旭川に、新たなビジネスチャンスを見いだしたのです。

さらに壮大な話になりますが、「読解力」を発揮することで世界を変えたのが、難民を助けるための国際機関である国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）のトップを1991年から10年間務めた、故・緒方貞子さんです。

緒方さんが最初に力を発揮したのがクルド人難民問題です。2000万〜3000万人いるとも言われる国を持たない世界最大の民族・クルド人は、イラクやイラン、トルコ、シリア、アゼルバイジャンなどに居住しています。

湾岸戦争（1991年）を機にイラク国内のクルド人が武装蜂起し、イラク政府軍はそれを弾圧しました。このため約180万人のクルド人がトルコやイランに向かって避難しましたが、トルコ政府はクルド人たちの入国を認めず国境を封鎖。彼らはイラクの国内避難民として国境地帯で立ち往生してしまいました。

そこでUNHCRに着任したばかりの緒方さんが、クルド人たちを助けるように指示しました。しかし職員たちから、「UNHCRは難民を助ける機関です。難民とは居住していた国で危険にさらされ国外へ逃げてきた人のことです。このクルド人たちは国内避難民で、難民ではありません」と反対されました。規定に忠実なのかもしれませんが、^④まさしく官僚答弁といった具合です。

それでも緒方さんは食い下がり、「困っている人を助けるのが私たちの仕事なんだから、とにかく助けなさい」と命令して、結果的にUNHCRはイラク国内に難民キャンプを作って援助活動を行い、クルド人を助けました。

この緒方さんの行動によって、「国内避難民」も「難民」であると定義が変わり、現在のUNHCRは難民も国内避難民も両方を助けるようになったのです。

それまでUNHCRは、民族、宗教、政治的な主張の違いなどで迫害され、国外に逃げた「難民」を助けていました。クルド人は民族や政治的な主張が違うことからイラク国内で命の危険にさらされ、国内を逃げ回っていましたが、国外には出ていないため「難民」ではありませんでした。

でも緒方さんは、そもそもUNHCRがなぜできたのか、困っている人を助けるためではないか、国内避難民も困っている人なんだから当然助けよう、と考えたのです。緒方さんには、「^⑤ものごとの本質を読み解く力」がありました。

(池上章『社会に出るあなたに伝えたい なぜ、読解力が必要なのか?』より)

(注1) リテラシーⅡその分野に関する知識や理解、分析、活用する能力。

問1 ——線部①「日本の読解力15位」とありますが、このことについての説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 数学や科学が世界で上位クラスである一方、読解力の成績は以前からあまりよくなかったが、新聞報道に大きく取り上げられたことで社会問題にまで発展した。

イ 数学や科学と同じように読解力も世界で上位クラスであったが、たった数年で大幅に順位を下げてしまったので、教育の敗北ととらえられた。

ウ 数学や科学が世界で上位クラスであるのに対して、読解力だけが過去より大幅に順位を下げたことは、衝撃的な事実として多くの方面で反響を呼んだ。

エ 数学や科学は順位を維持できているのに読解力だけが大きく後退したのは、若者の文章力から予想されていたことであり、多くの人々はこの結果を受け入れた。

問2 本文中の空らん I・II にあてはまる語の組み合わせとして最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア I たしかに II 要するに

イ I むしろ II けれども

ウ I いわば II つまり

エ I もちろん II しかし

問3 次の一文は本文中の【A】～【E】のどこに入れるのが適切ですか。一つ選び、記号で答えなさい。

文章だけでなく、会話にも読解力は必要です。

問4 ——線部②「状況次第でさまざまな意味にとれるため、読解力がある言葉だと言えるでしょう」とありますが、さまざまな状況下で読解力を発揮するために注目すべきことを本文中から二点、それぞれ十文字と八文字の語句をぬき出して答えなさい。なお、解答らんの一点目に十文字、二点目に八文字を答えなさい。

問5 ——線部③「読解力はこのように、ビジネスにおいても当然欠かせないものです」とありますが、たとえば星野佳路さんが旭川でのビジネスにおいて「読解」したのはどのようなことですか。四十文字以上、五十文字以内で具体的にわかりやすく説明しなさい。ただし、句読点などの記号も字数にふくめます。

問6 ——線部④「まさしく官僚答弁といった具合です」とありますが、これはどのような考え方を批判した表現でしょうか。最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 少しの間違いも見逃してはならないとする考え方。

イ 決められたこと以外はやろうとしない融通の利きかない考え方。

ウ 相手との人間関係に波風を立てないことを優先する考え方。

エ 目の前の仕事を無難にこなすことだけを意識する考え方。

問7 ――線部⑤「ものごとの本質を読み解く力」とありますが、それはどのような力ですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 先が見えない状況じょうきょうの中でも、あらゆる危機を想定することで、意見が分かれた集団をまとめて引っ張っていく方法を考え出す力。

イ 決められたルールにしばられず、有能な人の意見を尊重することで、世間一般の反対にまどわされずに正しい理論を導き出す力。

ウ 迷いや不安などの一時的な感情に流されることなく、気持ちの安定を保つことで、納得できる正しい答えをつき止める力。

エ 常識にとらわれず、取り組んでいる問題にとって最も重要なポイントに目を向けることで、本当に必要なことを見つけ出す力。

三 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

谷津流やつりゅうという昔からある農村に住む者と道路をはさんで開発された新興住宅地に住む者は、同じ中学に通ってはいるが、都市開発の余波により、谷津流側とニュータウン側に分かれて対立していた。谷津流の集落を代表する長谷部家の兄弟である武男たけおと幸男ゆきおは、誕生日が十一ヶ月違いの同じ中学一年生である。

「……うん。引つ越すんだ、二学期の前に」静香は後ろ手に両手をやって、唇くちびるだけでささやかな笑みを作った。「だから、私も転校するの」

翌日の朝一番に、武男は昇降口に姿を見せた静香を捕まえて真偽を質した。武男は動揺どうようしていて、静香の姿を見つけるや、周りなど気にせずにそうした。兄の隣にいた幸男が、止める間もなかった。^①静香は視線を下げて何度か瞼まぶたをばちばちやつてから、「こつちに来てくれる？」と、衆目が集まる場を離れ、校舎の中でも人気のない教職員用トイレの前に兄弟を誘った。

そして、引つ越しと転校を認めたのだ。

「なんでだよ」

「だって、もうお店やっていけないもん。うちのお父さんとお母さん、去年……もうちよつと前からかな。すごく大変そうだった。お店のもの、全然売れなくなっちゃって、毎晩深刻そうに話してた。ときどき喧嘩けんかもしてた。お金も借りてて……そこから電話も来るし」

「なんの電話だよ」

「だから……お金返せとかそういうの。お金はないから、お店と土地を売るのが。そうすれば、少しは返せるからって」
「なんで……そんなにお店、駄目だめになったんだ？」

幸男の母が買い物をするときは、必ず宮間商店を利用していた。お酒、お醤油、お味噌、日用雑貨、お菓子。ときには農作業に使うゴムの長靴ながぐつもだ。

「武男くんちは、うちのお店を使ってくれていたけど、みんなの家がそうじゃないから」

「どういふことだ？」武男はようやく思い至ったようだ。「あ、まさか」

静香は笑って頷いた。「うん、緑ちゃんのお父さんのスーパ―。あそこ大きくて品揃えもすごいから、お客取られちゃったみたい。でも、仕方ない。うちなんて負けて当然なんだ」

「そんなこと言うな」

「でも、本当の事だもん」

「転校してどこ行くんだよ」

静香はセーラー服のスカートを、^Aおどけたようにひらりと手で払ってみせた。「東京か横浜かな？ 私、都会の子になるんだよ」

どう見ても空元気だった。

「……なんでだよ。なんで」

② 武男が呆然と言葉を落とした。父の情報が間違いであればいいと、兄は願っていたに違いなかった。なにくれとなく気にかけていた態度から、静香に好意を寄せているのは見え見えだ。転校すると当の静香の口から聞かされたショックは、計り知れないだろう。

「このこと……緑は知ってるの？」

B おおずと尋ねた幸男に、^③静香は思いがけなくもきつぱりと釘を刺した。

「緑ちゃんを責めたりしないでよね。緑ちゃんも緑ちゃんのお父さんも悪くない。私が泣いちゃったとき、一番に気にしてくれたのは緑ちゃんだった。引っ越すことを打ち明けたら、一緒に泣いてくれたよ。緑ちゃん、ごめんねって言ったけど、ほんと緑ちゃんは悪くない。仕方がないんだよ。そういう時代なんだって、お父さん言ってた」

緑は悪くない、仕方がないのだと、静香はしだいに潤んできた瞳をごまかすように、ことさら明るく繰り返した。

「だからね、もうちよつとあと、一度お店に来てくれないかな」

最後に買い物をしてほしいということかと思いきや、そうではなかった。

「お菓子とかジュースとか、そういうの、あげる。武男くん、子どものころから好きだったよね、お菓子。うまい棒とか。コーラやスプライトも、ガラス瓶のはわかんないけど、缶のなら少しはあげられると思うよ」

「そんな、いいのか？」

「うん。だってもう、売れないんだもん。お店もなくなるし。仕入れ元に返せるものは返すみたいなこと、お父さんとお母さん言つてたけど、一度棚に並んだ食べ物なんかは難しいみたいで。だったら、武男くんたちが持つていつてほしいな」

お店のものが売れなくなつて、土地を離れるまでの事態になつてゐるのだ。うまい棒の一本でもお金に換えられるなら、宮間一家としてはそのほうがいいに決まつてゐる。

宮間家のこれからの財政を気にして、素直に「うん」と言えないでゐる兄弟に、静香は唇を尖らせてみせた。

「もらつてよ。捨てることになつたら、もつたいないでしょ。私が全部食べたなら太つちやう。そうだ、お菓子やジュースだけじゃなくなつて、文房具や着るものなんかも、持つていつていいよ。お父さんには私から頼んでおく。みんなにはお世話になつたし、好きだから」

好きだから。

幸男は隣の兄の顔を見た。

武男は唇をへの字に曲げ、鼻の穴を丸く膨らませて、音をたてて呼吸を繰り返してゐた。日焼けした頬にほんの僅かな赤みが差し、短い髪の毛の生え際からは汗が滲み、朝露のように丸く膨らんだ一つがこめかみを伝つて滑り、顎先からぼたりと胸に落ちると同時に、予鈴が鳴つた。

「……林間学校にこつそり持つていけばよくない？ 私も参加しようと思つてるんだ。引越すぎりぎり前だから。さ、ホームルームが始まつちやう。行こう」

夏服のセーラー服の背中の白さが、幸男の目を射た。半袖から覗く二の腕は、柔らかさそうだった。原っぱで遊んでいた子どものころは、もつと痩せていて、硬そうで、ゴボウみたいな腕だった。でも、快活に草の中を動き回つてゐた。

いつから静香の腕はあんなふうになつてゐたのか。元氣のない顔ばかりを気にしてゐた。静香は早足だった。足取りの重い兄弟から離れていく静香の後ろ姿に、幸男は唇を噛んだ。

ちくしよう、と武男が声を引き絞った。

ちくしよう、ちくしよう、ちくしよう。

木造校舎の木の匂いと、埃臭さにまじって、武男の汗がおった。

④ やりきれなさのおいだと、幸男は思った。

クラスに戻った静香は、転校のことを誰にも言わなかった。昇降口で武男に捕まっているところに居合わせた生徒の一部は、そのことについて彼女に聞いたような顔をしたが、静香が緑に喋りかけて、仕掛ける機会を作らせなかった。

昼休み、武男は自分の感情を明らかに持て余し、どうしていいかわからないといった顔で一組にやってきた。

教室の片隅で、静香は緑と話をしていた。武男と幸男に打ち明けたことは、いずれはみんなが知ることだが、静香はそれ今日にしたいくないようだった。まだ心の準備ができていないのだろう。朝だつて武男が無神経に突っ込んでいかなかったら、普段の顔で過ごしたに違いない。そして緑は、「今日はまだ」という静香の気持ちを察知して、^⑤ お喋りというバリアを張っているのだ。楽しそうにお喋りしているところに、「もしかして転校するの？」などという重い質問は、切り出しづらいものだから。

ただ緑の（注1）目論見は、朝から同じクラスの中で彼女の行動を見てきた幸男だからわかるのかもしれない。武男にとつては、静香を案じて隣のクラスから来てみたら、元凶のスーパーに最も縁が深い緑が、辛さを押し殺して振る舞う静香の前でのんきに笑っている——そう受け取っても、おかしくはなかった。そもそも緑は、ニュータウン側の子なのだ。男子ほどではないが、谷津流の女子とニュータウンの女子は、間に（注2）結果でもあるかのように、一定の距離を保って近づかない。さらに谷津流の女子は数が少ないので、昼休みなどは一組と二組の子らがどちらかのクラスに出張し、固まって過ごしている。最初から静香に好意的で、垣根を越えて話しかけていた緑は変わり種と言えた。そのせいなのか、一学期もそろそろ終わりそうな今、緑はニュータウン組の女子の間では、少々浮いてきているような気もする。

ともかくにも、緑を責めるなど釘を刺されたのに、一見楽しそうな緑を目にして武男の頭は沸騰し、朝の静香の言葉も気化して飛んでしまったのだ。武男はずかずかと緑に迫った。無論、幸男が制止する間もなかった。

「おまえ、静香の前でよく笑えるな！」

緑の顔からさっと笑みが引いた。武男はさらに詰め寄った。

「おまえんちのせいで、静香は——」

無表情になった緑にかわって、静香が武男をきつく睨み、反発した。

「そうじゃないって言ったでしょ！」

静香の声で、教室に残っていた生徒の目が一つ所に集まった。自分の席で（注3）肥後守片手に鉛筆を削っていた秀明と、なにやら考え事をしていた桐人も振り向いた。様子を窺う生徒らの中、いち早く乱入していったのは保仁だった。

「田舎のお仲間同士で仲間割れかよ」保仁は慎次郎を引き連れ、静香の反発を浴びた武男をからかった。「女に怒鳴られて情けないな。おまえ、谷津流の大将みたいな顔してるけど、全然人望ないんじゃないやねえの？」

慎次郎が追従する。「凶体がでかいだけだ」

秀明と桐人は固唾を飲んで見守っている。

幸男は武男に駆け寄った。日ごろは（注4）寓話のコウモリみたいに、優位に立つニュータウン側の片隅にいるが、今は静香の打ち明け話を聞いた一人として、さらには武男のやりきれなさもわかる弟として、なだめなければと思っただのだ。

「兄ちゃん」

保仁と慎次郎は無視していい。静香と緑には頭を下げ、ここは一組から連れ出そう。幸男は武男の腕を引いた。

「兄ちゃん、落ち着いて。とりあえず……」

静香たちには謝りなよと促しかけたときだった。

「ま、仲間割れしてもらったほうが、世の中の的にはいいけどな」

保仁の口調は迷いなかった。本当に自然に口から出たという感じだった。

「長谷部の家が偉そうな顔して祭事とか仕切って、古い谷津流とかにしがみつくから、発展もしないんだ。偉そうな家があるに変にまとまるからな。仲違いしてバラバラになってくれたら、あんな田舎の集落、喜んで捨てる家も出てくるよ。土地を売ってニュータウンのほうに引越したりさ」保仁の言葉は止まらなかった。「そうしたら空いた土地を父さんの会社が開発し

て、便利な範囲が広がる。電車も多く停まるし、バス停だって増える。田んぼだった場所にマンションが建つ。全部がニュータウンになる。農家なんて泥だらけで汚くなるし、重労働だ。こっちはトイレも水洗だし、ペランダからは太平洋だって見える。おまえらは二年の元気とかいう奴の家を、土地売ったから裏切りもの扱いしてるけど、本当は羨ましいんだ」

心からそう思っているから、迷いが無いのだ。両親や、ときおり彼が口にする県の偉い伯父さんなど、彼をとりまく人々もそう言っていて間違い無いと信じ切っている。だから、ここまで自信たっぷりなのだ——^⑥幸男は言葉を重ねることに得意げになる保仁の顔から、なぜか目が離せなかった。

「うちのマンションの前は、CMにだって使われた」

(注5) 校長の働きかけでおよばれたときの新しい街並みが、幸男の眼前に浮かんで消える。

「伯父さんはもつと開発したほうが、県のためにもなるって言うてる。ゴルフ場のほかにも施設を作ったほうがいいって」

黒蛇山のゴルフ場を作るとき、祖父と父は谷津流住民の代表として、最後まで開発に反対した。結局会社ばかりではなく、保仁の伯父さんという行政サイドまで出てきて押し切られてしまったが。

(注6) 子どもたちがゲームをやる前から、大人も負けていたのだ。

「もう一つの山にも、遊園地みたいな施設があればいいんだ。そうしたら、東京からもつといっぱい人が来るようになって、賑やかになる。人口だつてうんと増える。増えたら町から市になる。なつたら税金でもつといっぱい便利な施設ができる。おまえらだつて田んぼなんてやめて余った土地を売ったら、金持ちになるんだぞ」

せめて白鷹山だけは守らねばならないと、祖父と父は晩酌のときに、しばしば口にする。神様がいてお祭りにも使う山だから、大事にしなければならぬことになっているのだと。

でも、それはなぜなのか。なぜそう伝え継がれているのか、肝心の意味がわからないから、黒蛇山では負けたのでは。だとしたら、白鷹山だつていずれば——。

「要は」保仁はそこで、最悪のたとえを出した。「緑のスーパーと静香のボロい店くらべたら、どっちがいいかってことだよ」

そのとき、^⑦「一番ショックを受けた顔をしたのは、緑だった。あつ、と思ったときには、武男の左手は保仁の胸倉にあつた。」

「おまえらさえ来なかったら！」武男の口から、保仁の顔に唾が飛んだ。「おまえらが来たせいだ！」
保仁も負けていなかった。一番上のボタンを開けている武男のシャツを、同じように掴み返す。「俺たちは来てやったんだ。
父さんと伯父さんは、田舎を都会にしてやってるんだ」

激した武男が保仁の肩を小突いた。保仁は一瞬怯んだが、武男のむこうずねをキックして応戦した。わっと教室内の生徒から声が上がった。口ではなく腕つぶしでやり合う喧嘩が始まったのだ。

「兄ちゃん」

拳に変わった武男の右手が、保仁のみぞおちに食い込んだ。保仁は体をくの字に曲げ、口を大きく開けた。

「もうやめてよ！」

静香が叫び、緑は両手で顔を覆った。保仁はパンチをもらった腹を押さえながら、酸欠の出目金みたいに目を見開いて、口をパクパクさせた。殴られた痛みより、もっと重大ななかが彼の身に起こり、それにパニックになっているようにも見えた。声はいっさい発しなかった。彼はそのまま体を折った体勢で、よろよろと教室を出ていった。慎次郎が「大丈夫か、どうしたんだよ」とついていく。

パン、と頬が鳴る音がした。

頬を押さえていたのは、武男だった。武男の前には、静香がいた。

(乾ルカ『龍神の子どもたち』より)

(注1) 目論見Ⅱ計画。企て。

(注2) 結界Ⅱ外からの出入りができない区域。

(注3) 肥後守Ⅱ文房具で、折りたたみ式小刀の一種。

(注4) 寓話Ⅱインソップ物語など、批判や教訓となったとえ話。

(注5) 校長の働きかけ・(注6) 子どもたちがゲームをやるⅡ以前に生徒たちの対立を見かねた校長が、赤色を使わずに赤いやマツツジが群生する山の風景をデッサンするというゲームを提案し、ニュータウン側が勝った。その後、校長のすすめで、おたがいを家に招待し、田舎とニュータウンそれぞれの暮らしを見る機会がもたらされた。

問1 — 線部A 「おどけたように」・B 「おずおずと」・C 「固唾を飲んで」の意味として、最も適切なものを次の中から

それぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

A おどけたように

ア わざとらしく見せつけるように

イ 相手を困らせて嫌われるように

ウ こっけいな動きでふざけるように

B おずおずと

ア ためらいながら

イ ゆっくりと

ウ 軽やかに

C 固唾を飲んで

ア 巻き添えを食わぬように息をひそめて

イ 事の成り行きがどうなるかと緊張して

ウ いつでも助けに行けるように集中して

エ 一体何事が起きたのかと混乱して

問2 — 線部①「静香は視線を下げて何度か^{まなこ}瞼をぱちぱちとやってから」とありますが、ここでの静香の様子として最も

適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア みんなの前で突然^{とつぜん}武男に呼びかけられ、^{おどろ}驚くと同時に^は恥ずかしく思っている。

イ 大勢の前で武男に秘密を明らかにされて怒りと悲しみをおさえきれないでいる。

ウ まだ言いたくなかったことについて武男から聞かれて^{こんわく}困惑し^{どうどう}動揺している。

エ いきなり武男に質問され、なんと答えてよいかわからなくなっている。

問3 ——線部②「武男が呆然と言葉を落とした」とありますが、この時の武男の様子の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 両親の経営する店が閉店することで落ち込んでいる静香に対してかける言葉が見当たらないでいる。
- イ ニュータウンのスーパーのせいで閉店する宮間商店のために何もできない自分の無力さに苦しんでいる。
- ウ 両親の店が閉店するにもかかわらず無理をして明るく振舞う静香を見て、自分が力になろうと考えている。
- エ 静香が都会に引っ越してしまうことを受け入れるしかない現実に直面して、何も言えなくなってしまうっている。

問4 ——線部③「静香は思いがけなくもきつぱりと釘を刺した」とありますが、なぜ思いがけなかったのでしょうか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 静香の言葉が、引っ越しの原因である緑の実家に気を遣うあまり、本心をかくした言い方だったから。
- イ 静香の言葉が、引っ越しの原因ともいえる緑の実家をうらまえないばかりか、緑をかばう発言だったから。
- ウ 引っ越しの原因は緑の実家にあるとわかっているのに、静香がそれを認めようとしなかったから。
- エ 引っ越しのことを静香はまだ誰にも話していないと幸男は思い込んでいたから。

問5 ——線部④「やりきれなさのにおいだ」とありますが、「やりきれなさ」とは誰のどのような気持ちのことですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 静香が離れていくことを止めることもできず、悲しんでいる彼女を助けることもできない武男の悔しさ。
- イ 静香を自分たちから強引に引き離れたニュータウンの大人たちに対する武男の強いうらみ。
- ウ 長い間に一緒に成長してきた幼なじみとの突然の別れを受け入れることができない幸男の悲しさ。
- エ 自分の好意を伝えることすらかなわず、静香と別れなければならなかったことに対する幸男のあせり。

問6 ——線部⑤「お喋りというバリアを張っているのだ」とありますが、緑はどうしてこのような行動をとるのですか。

その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 静香が転校したくない気持ちを抑えることができずにいるので、お喋りをして静香の気をまぎらわせ、楽にしてあげるため。

イ 転校の原因を作った自分の家のことを本当は静香はうらんでいるのではないかと心配で、そんな自分の気持ちが表に出ないようにするため。

ウ お喋りして仲のよいところを見せつけて、静香の転校は自分の家のせいであると周囲に知られないようにするため。

エ 転校することをまだ周囲に知られたくないという静香の気持ちに気づき、他の人が話しかけてこないようにするため。

問7 ——線部⑥「幸男は言葉を重ねることに得意げになる保仁の顔から、なぜか目が離せなかった」とありますが、この時の幸男の様子の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の考えに迷いを持たず、ニュータウンの利点を自信満々に語る保仁に対し、うらやましさと敗北感を感じている。

イ 自分が心の底で谷津流に対して抱いていた思いをすく指摘してくる保仁におどろきをかくせないでいる。

ウ 自己中心的で不公平な大人たちの言い分を全く疑いもなく信じ切っている様子の保仁を見て、あきれている。

エ クラスメートが傷つくことを考えもせず自分の考えばかりを押しつける保仁に、怒りがこみ上げている。

問8 ——線部⑦「一番ショックを受けた顔をしたのは、緑だった」とありますが、なぜ「一番ショックを受けた顔をした」のが緑だったのでしょうか。その理由を本文に即して五十字以上、六十字以内で説明しなさい。ただし、句読点などの記号も字数にふくめます。

(おわり)

